



現在のこの土地は、私達が結婚した翌年の昭和二十八年五月、勤めていたは大洋漁業（株）より、妻に毎月留守宅送金して、貯金していたお金で、現金で買った。

私が出航している間は、妻は生家で農業を手伝って居たから、衣食住にお金を余りかけず、送金して来ると、すぐ為替のまま郵便局に積んだと云って居た。

その当時、平沢小学校の校長先生の月給は、一万円位だと父は言っていた。

契約金は五〇万円、後で十万円値上げされ、さらに立ち退き料に十万円支払ったので、計七十万円で購入した事になる。

売主が引越し、先に建てていた下宿屋の工事代が不足したので、親父の指しがねだろう。円田の小松大工さんの請負だった。

三十一年春のお盆に引越し、電気店らしく改造、六月十五日開店した。その家も、古く狭くなったので、昭和五十五年に建て替える事にして、私が電気工事を請け負っている田附さんに請け負って貰った。田附建設有限会社になった第一号の請負である。

資金は殆どない。毎日の様に家に





遊びに来る盛大堂社長さんが七十七銀行に融資の申し込みをしてくれた。

だが七十七銀行は私らにとって敷居が高い。生返事するものだから、盛大堂さんは怒り、「じや俺の定期から壱千萬円降ろしてくれ。俺が貸すから」と。銀行は驚いた。

盛大堂さんは一億円近い預金があると、話しの端々に出ていた。それに昔はその筋の人間だった。

「何が壱千万円ばかり。あの家の抵当価値は五千万円以上だ」と云われ平身低頭、貸して貰える事になった。

この家を抵当に、利子年九・五パーセント、返済期間十年、残債方式で借りた。返済に支障来たす恐れがあつては大変。二階を貸す事にし、お得意さんだった昭和設計が、町外れの田圃の中の不便な場所を借りていたので、話し掛けたら乗って来た。

翌日社長がこんな様に作って下さいと、得意の図面を持って来た。もう気持ちは宮城野原にあつたようだ。

家財や商品は、田舎と、泰ちゃんが角田に建てて空き家になっていたの所を借りて運んだ。

住まいは、盛大堂の二階を安く貸して貰い、生まれて初めての、借家暮らしが始まった。

古屋の解体、地鎮祭を済ませ、昭和五十五年四月十三日、子供達や田舎の兄弟、知人のお手伝いを貰って棟上げにこぎ付けた。天気もよかった。

約三ヶ月で完成。新しい家で親兄弟に来て戴き、新築祝いを買やかに行った。お祝いの席上「昭和五十五年、私が五十才、五十五坪の家を・・・」云おうと思ったが、妻から「キザだから」と云われ、納得。言わない事にした。

私達がアパートから引越する前に、昭和設計は早々と引越し、営業を始めていた。

あれから二十三年建物は古くなったが、まだ大丈夫、私が生きている間持つて呉れればよいと思っ  
ている。

平成十四年十月二十四日



上棟式お祝いの挨拶